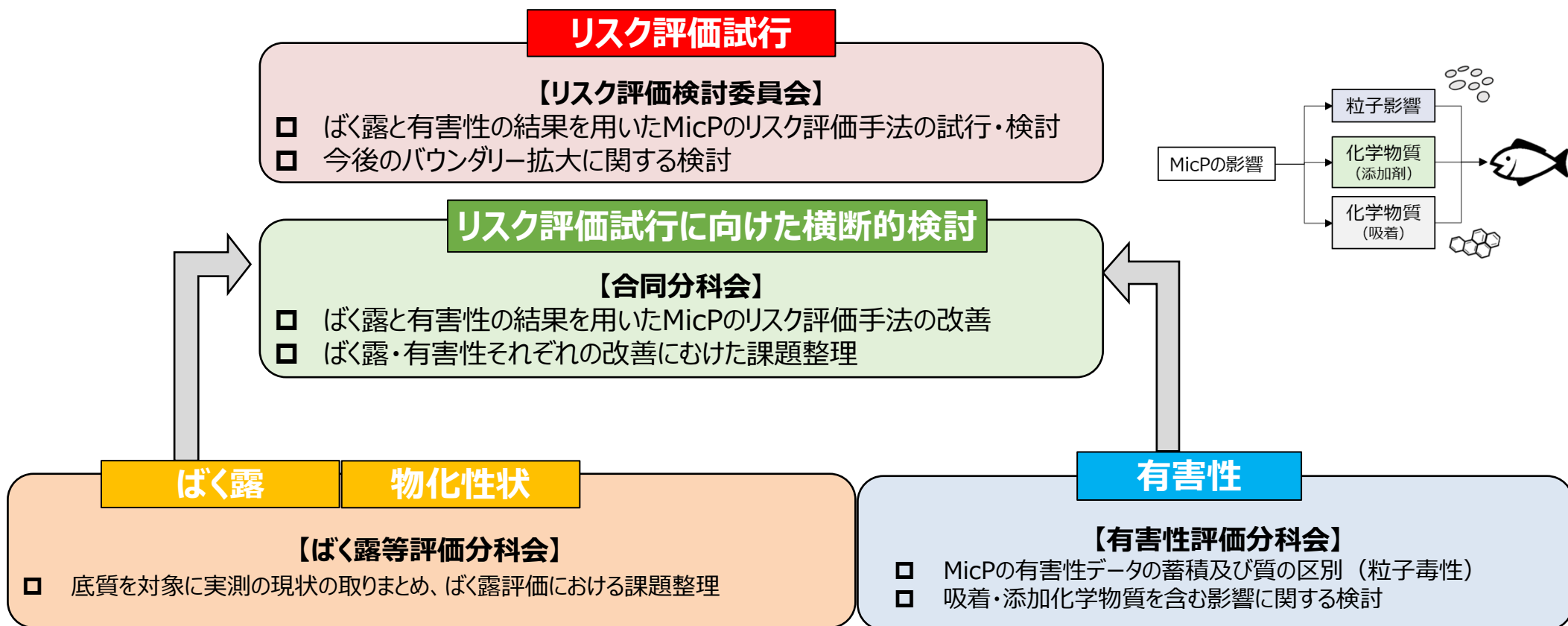


# 本事業の概要（R7年度版）

- 背景：マイクロプラスチック（MicP）の生物・生態系への影響が懸念されているが、その有害性やリスクを可能な限り定量的に明らかにすることが必要
- 目標：MicPのばく露・環境中運命、水生生物に対する有害性等に関する科学的知見を収集した上で、生物・生態系への影響を定量的に把握すべく、リスク評価手法案の確立を目指し、将来的に行政の判断材料となるリスクを見積もる
- R7年度の主な更新点は次ページ



## ■ ばく露等評価

令和7年度のばく露等評価では、底質中のMicPを対象に、存在状況、挙動や推計に関する情報を取りまとめ。

また、底質におけるばく露等評価における現状の課題点と今後の検討の方向性を整理（「6. ばく露等評価（底質）」）。なお、海洋表層に関する整理は令和6年度のを再掲）

## ■ 有害性評価

水生生物に対する粒子影響については、有害性試験結果査読によるデータの評価は令和6年度に引き続き実施し、有害性データの暫定とりまとめ結果を更新（「4. 有害性評価（マイクロプラスチックの粒子影響）」）

同時に、水生生物に対する吸着・添加化学物質を含む影響に関しては、水生生物によるマイクロプラスチックの吸着化学物質及び添加剤の取り込み、排出フローを整理のうえ、今後対応すべき課題を明確化すべく、関連するレビュー論文3報を調査し、これまでに得られている知見を整理（「7. 有害性評価（吸着・添加化学物質を含む影響）」。）